

虎の門病院麻酔科専門医研修プログラムおよび関連資料

目次

01.麻酔科プログラム概要	2
---------------------	---

01.麻酔科プログラム概要

1) 虎の門病院とは

虎の門病院の理念は、「医学への精進と貢献、病者への献身と奉仕を旨とし、その時代に
なしうる最良の医療を提供すること。(初代院長 大槻菊男)」です。これをもっとも平
易な言葉で言い換えた共通認識は、「家族を安心して任せられる病院」ということです。
そして、この理念が職員全体に浸透している病院です。

2) 教育は病院の礎

虎の門病院は、1958年の会員当初から、初期研修医が院内に居住するといった先駆的な
教育活動に取り組んできました。内科系、外科系を問わず、どの診療科であっても若手
医師の教育には熱心です。同時に、1人の患者に対する治療という点でも診療科同士
の連携は抜群です。これは、若手医師が、いろいろな診療科をローテートして研修をする
横糸と専門医による指導という縦糸がうまく織りあっている証です。

3) 豊富な症例

2023年度の、麻酔科関与手術例は6,720件で、全身麻酔を含むものが全体の97%を占
めています。症例の特徴として、ほとんどすべての診療科が揃っており、各診療科が相
応の術式および手術件数をこなしていることです。初期の麻酔科研修では、硬膜外麻酔
併用症例が多いことや胸部外科手術が多いことは大きな利点です。硬膜外麻酔、分離肺
換気、そしてCV挿入といった基本的な手技は、専攻医の時期に確実に習得しておかな
ければなりません。

どの病院でも行っているものかもしれませんが、やはり研修レベルに応じた難易度の提
供や、豊富な症例数の経験を提供できる病院は、案外少ないものです。

また、2019年に新病院移転を契機に循環器外科症例数も大きく増加しています。

4) 専攻医は毎年3名まで

2024年4月現在、麻酔科常勤医は26名で、このうち専門医資格(麻酔科専門医)を有
する者が13名、専攻医が11名です。過度な労働環境にならないよう麻酔科医数確保の
体制を構築しています。そして、専攻医の教育指導を考慮した症例の配分を心がけてい
ます。そのため専攻医の採用人数については、適切な教育環境の整備や、研修プログラ
ム修了後にも虎の門病院への継続勤務を希望する者への対応から、毎年3名までとし
ています。

5) 臨床を支える知識習得

脳神経外科の麻酔、産科の麻酔、心臓外科の麻酔、小児の麻酔など、臨床経験は大切で
す。しかし、同時に基本的な学術的知識も習得しなければなりません。多くの麻酔科医
が、ひとつの組織として共通認識を持ち、また守衛範囲が広く進歩の早い麻酔科学に対
しても最新のEBMに基づき、個々の患者への最適な医療を提供することを念頭に講習
などを開催しています。

6) 見学について

見学は随時受け付けていますが、専門研修プログラム採用に向けては概ね5月中に見学

会を行い、6月初旬を目処に内定を出しています。見学に関しては、電話またはメールでご連絡ください。

《連絡先》

虎の門病院 代表電話番号 03-3588-1111

玉井久義（麻酔科部長・副院長：内線 7401、水曜日不在）、tamaih.dis@mail.com

または、森芳映（麻酔科部長：内線 7462、火曜日不在）、moriy-tora@circus.ocn.ne.jp

以下は、日本麻酔科学会ホームページに掲載されている「虎の門病院麻酔科専門研修プログラム」から抜粋したものに更新改変をしたものです。

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療、集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者へ最適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

虎の門病院を基幹病院として、埼玉県立小児医療センター、東京ベイ・浦安市川医療センター、東京大学医学部附属病院、帝京大学医学部附属病院、および専門研修連携施設B：虎の門病院分院（以下分院）の5施設と連携を組んだプログラムとする。これらの病院群における連携により、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を円滑に達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに記されている。

3. プログラムの運営方針

研修の初年度1年間は、手術麻酔を中心に麻酔科医としての基礎的な知識および技

術を習得する期間とする。硬膜外麻酔やその他の区域麻酔法などの基本的手技を習得する。1年目後半からは、呼吸器外科手術や食道手術など、より総合力が必要となる症例へ積極的に関与していく。また、この間に経食道超音波診断装置の研修を内科専門医の指導下で行う（研修2年目までにJB-POT受験を推奨する）。

研修2年目から、心臓外科手術への周術期管理の研修を開始する。具体的には、心臓外科手術カンファレンスへの参加、心臓外科手術の麻酔を担当する。専攻医の経験目標に必要な特殊麻酔症例に関しては、原則としてこの2年間で達成できるようプログラムを構築する。

研修の後半2年間は、小児麻酔、集中治療、ペインクリニック、周産期医療といった関連領域の診療へ従事する機会を提供する。また、手術麻酔に関しては、心臓麻酔、小児麻酔といったサブスペシャリティの高い症例を経験できるようプログラムを構築している。連携をしている専門研修連携施設毎の特徴を理解した上で、この期間内に専攻医の希望により下記ローテーション表にあるように6ヶ月から1年6ヶ月間にわたり、ローテーション病院を選択できるようプログラムを運用する。

連携研修施設へ求める特色としては、次のようになる。研修連携施設の項目参照のこと。

- ① 埼玉県小児医療センター：小児疾患全般（研修期間に応じたプログラムを準備）
- ② 東京ベイ：東京ベイ・浦安市川医療センター：成人心臓疾患全般を多数研修
- ③ 東大病院：東京大学医学部附属病院：産科麻酔、心臓移植など一般病院にはない特殊疾患
- ④ 帝京大学病院：帝京大学医学部附属病院：ICU管理、大学附属病院での医療
- ⑤ 虎の門病院分院

年間ローテーション表

	1年目	2年目		3年目		4年目
		前半	後半	前半	後半	
ローテーションコース1	虎の門病院	虎の門病院	虎の門病院	連携施設 A	連携施設 B	虎の門病院
ローテーションコース2	虎の門病院	虎の門病院	連携施設 A	連携施設 B	虎の門病院	虎の門病院
ローテーションコース3	虎の門病院	虎の門病院	連携施設 A	連携施設 B	連携施設 C	虎の門病院

連携施設 A～C の選択については、最大一年間は同一施設での研修も可能とする

週間予定表の参考例

虎の門病院勤務の場合

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術	手術	代替休日	手術	手術	休み	休み

午後	手術	手術	代替休日	手術	手術	休み	休み
夜間		当直					